



発行所 金沢市泉本町3-111 金沢高等学校 新聞部・文化委員会

校訓と教育理念

質実剛健の 気風を高揚し 共に求める真理 共に育む友愛 共に尊ぶ礼節 共に鍛える心身

学校のため 地域のために ~前期生徒会執行部が始動~



登校する生徒に元気にあいさつする執行部メンバーたち

平成29年度前期執行部役員は4月25日に選出され、新体制がスタートした。田丸会長をはじめとするメンバーは、一丸となって朝のあいさつ運動や募金活動等に取り組む、校外で奉仕活動を繰り広げている。

10人に抱負を聞く

前年後期から生徒会役員を続ける田丸君は「責任感を持って活動し、これまでの3年間で最もよい文化祭を作り上げたい」と語った。副会長の橋本君は「一年時からの生徒会メンバーであり、これまでの反省を生かしたい」と語り、同じく副会長の池本君は「金沢高校に貢献したい」と抱負を述べた。書記では勝田君が「全員で協力したい」と語り、大屋君は「少しでも役立ちたい」と意欲を見せた。会計の中村君は「生徒が積極的に発言できる学校にしたい」と述べ、同じく会計の足立君は「金沢高校をよくなるため努力したい」と笑顔で語った。

キラリと光るような学校に

杉浦外美夫新校長 語る

今年度から新しく杉浦外美夫校長が就任された。そこで杉浦校長にインタビューを行い、今後の抱負などについてお話を聞いた。

校長先生の高校時代に

部長として、ソフトウェアに打ち込んでいました。今では考えられないことですが、朝と放課後に加えて、「屋敷」まであります。その時は本当に日本一

を目指して頑張っていたので、苦しかったけれどその経験が今でも自分を支えています。

「これまでの金沢高校での思い出を聞かせてください。」

本校に勤務して38年になります。初めて自分が担任し

た生徒が卒業した時は感激しました。担任をしていた頃は、「ホッパーステップ・ジャンプ」という手書きの学級通信を、毎日10年間近く発行していました。

「校長先生の座右の銘は何ですか。」

あえて言えば「正直に働く」という言葉でしょうか。私は父を早くに亡くしました。が、両親が働く姿を見て、自

然とそういった生き方を学ぶようになりました。

「今後力を入れて取り組みたいことは何ですか。」

金沢高校をもっとキラリと光るような学校にしていきたいと思えます。具体的には校舎の新築に加え、「CLASS」などの最新の教育ツールを活用し、学校をより良く変えていきたいと思えます。

「最後に金高生にメッセージをお願いします。」

10年後、20年後どんな生き方をしているか。



金沢高校について熱く語る杉浦校長

な人になりたいかという点について、真剣に考えてほしいと思います。それがなく困難な時にも頑張ることができないので、じっくりと考える機会を持つことを期待しています。

広がる 善行の輪

4月26日朝、自転車の転倒でけがをした他校の生徒を、本校生徒5人が救出した。困っている人に対する手を差し伸べた善行に対し、各方面から賞賛の声が上がった。



前日の善行について、校長から激励を受ける生徒たち

救出にあたったのは、高橋紗良さん(3年3組)、渡辺那々さん(3年5組)、横井里奈さん(3年6組)、福井友香さん(2年2組)、山森弥月さん(1年7組)の5人。他校の女子生徒が転倒して出血したのを見て、ティッシュを渡したり自転車を本校まで運んだりして助けた。後ほど、その生徒の学校から感謝の意を言われた。

平成29年度前期 生徒会執行部

- 会長 田丸 知樹 (3年8組)
副会長 桶谷 莉杏 (3年8組) 池本 将真 (2年4組)
書記 勝田 聖惟 (2年8組) 大屋 和輝 (2年9組)
会計 中村 愛佳 (2年3組) 足立 大樹 (2年9組)
執行委員 佐原 樹 (2年3組) 吉田 成希 (1年7組) 大泉 有理紗 (1年7組)

執行委員の佐原君、吉田君、大泉さんは「今までの文化祭を超えるものにした」と語り、

戸田 進一 先生 (英語・生徒指導室)
「ご出身は?」
「もともと福島県です。高校時代の思い出は?」
「無茶をして叱られたことが数々あります。」

宮本 和弥 先生 (国語・第1職員室)
「ご出身は?」
「福島県です。」
「最近の趣味は何ですか?」
「読書やDVD鑑賞です。特別にお勧めは『聖の青春』(小説)です。」

長谷川 勇 先生 (理科・第1職員室)
「趣味は何ですか?」
「カメラ、スノーボード。」
「好きな芸能人は?」
「堀北真希です。」

市川 利明 先生 (数学・第3職員室)
「趣味は何ですか?」
「パソコンの解体修理と、ウォーキングです。」
「高校時代の思い出は?」
「修学旅行で東北を一周したこと。奥の細道を行く5泊6日の長旅でした。」

新任紹介
金沢高校へようこそ
今年新任の先生7名が本校に着任された。新たな先生方は出身地も多彩な方々が多い。新聞部では先生方のことをよく知ってもらうため、インタビューを行った。

中井 萌絵 先生 (地歴公民・第2職員室)
「高校時代の思い出は?」
「大阪の女子高に通っていた。休みの日はよくUSSJに行っていました。」

寺西 望 先生 (数学・進学指導室)
「最近ハマっていることは何ですか?」
「現代アートやストリートアート。そしてラップです。」

主張 AIは人間をしのぐのか

今後日本の高齢化はますます進み、人口減少も加速化していく。AIの力を活用しながら、人間にしかできないことを、人間が機械より勝っていることを生かして、豊かな社会を作りたい。

最近、毎日のように耳にする言葉、AI(人工知能)。我々の周りでも店頭で目にするAI搭載ロボット「ペッパー君」やLINEのサービスにある「女子高生AIりん」など、その存在は日に日に身近なものとなっている。チェスや将棋などの対戦型ボードゲームでは、コンピュータが人間を圧倒している。今年5月にはグループが開発したアルファ碁が、世界最強とされる中国の囲碁棋士を破り、人間の能力を上回ったことを証明した。

機械で人を選ぶ時代
ゲームの世界だけではなく、AIは医療、メテオ、交通等の幅広い領域に広がっており、最近のビジネス界では、50%に当たる職業が、人工知能やロボットで代替されると言われている。今後AIはますます進化し、お仕事を受けた職に就けない大人が増えていくのだろうか。オフィスの味わいがある。手作りのぬく

伊井 昌彦 先生 (国語・生徒会指導室)
「ご出身は?」
「休みの日に朝早く、人のいない温泉につかっている時。

「ご出身は?」
「福島県です。」
「最近の趣味は何ですか?」
「読書やDVD鑑賞です。特別にお勧めは『聖の青春』(小説)です。」

「趣味は何ですか?」
「カメラ、スノーボード。」
「好きな芸能人は?」
「堀北真希です。」

「趣味は何ですか?」
「パソコンの解体修理と、ウォーキングです。」
「高校時代の思い出は?」
「修学旅行で東北を一周したこと。奥の細道を行く5泊6日の長旅でした。」

ある専門家によれば、創造力、共感力、推理力、断片的

社会を豊かに

AI活用で

「カラフィナ」という女性ボーカルユニットです。ハイモニーが美しいです。





# 東京五輪まであと3年 事前合宿誘致に高まる熱気

特集



卯辰山をイメージした屋根のデザインが印象的な金沢プールの外観

トツプスイマーだけでなく、もちろん一般市民も気軽に利用できる。金沢プール共同事業体の川城智亮館長は

**北陸最大の屋内プール**  
既にフランスのチームが事前合宿を行うことが決まった金沢プール。新聞部では、4月にオープンしたばかりの北陸最大屋内プールを取材す

東京オリンピックまであと3年となり、石川県内でも各国の事前合宿を誘致する動きが活発になっている。五輪選手の合宿が県内で行われれば、世界屈指のアスリートを間近で見られる機会となり、国際交流やスポーツの活性化につながると期待される。



最新鋭の設備を備えた金沢プール

**6か国語パンフレットで魅力発信**  
石川県では各国の事前合宿を誘致するため、ドイツ語やスペイン語など、6か国語のパンフレットをこのほど作製した。パンフレットには県や

さらには石川県が各国の代表チームの事前合宿を誘致する施設の一つに、小松市の木場渇力ヌー競泳場がある。国内唯一のカヌー専用競泳場であり、このほどニュージーランドの代表チームが日本代表と2週間の強化合宿を行った。小松市では新たなトレーニングセンターを同所に建設する予定で、小松市スポーツ育成成練の橋本翔太さんは「パラリンピックの合宿にも対応し、乗り降りする場にスロープを増設して、より充実した施設にします」と語っていた。

**ニュージーランド代表は木場渇で合宿**  
「地元選手の育成強化に貢献し、次世代のオリンピック選手を発掘できるような施設にしていきたい」と意気込みを熱く語った。

各自自治体の魅力に加え、体育館やグラウンドなどの使用可能な施設が紹介されている。県スポーツ振興課東京オリンピック・パラリンピック担当課の池田忠義課長は、「事前合宿は五輪開催国から遠い国が実施することが多く、各国の母国語で強アピールしたいと作成しました。既にい



NZの代表チームが合宿を行った木場渇力ヌー場



お世話になったホストファミリーと

現地ではパティと呼ばれる世話役の現

**★文化の違いを実感★**  
**アメリカ海外研修に17人が参加**  
本校の海外研修は3月10日から20日までアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで行われ、1・2年生17名が異文化体験を通じて国際的な視野を広げた。

渡米に先立ち、生徒たちは事前研修を重ね、アメリカの生活や文化について学びを深めてきた。初日はサンディエゴの空港からホストファミリーの家に向かい、さっそく英語漬けの生活がスタートした。



くつかの国から問い合わせが来ています」と、多言語パンフレットの作成の意義を語り、多くの外国人の来県に期待を込めた。  
東京オリンピックは開催地の東京だけでなく、地元石川でも世界のトップ選手たちの姿を間近で見られる機会となりそうだ。3年後の大会に向けて、アスリートたちの受け入れ態勢を万全に進め、スポーツを通じた国際交流の輪を広げていきたい。

日本語以外の6か国語で作られた五輪事前合宿誘致パンフレット



海外の授業を体験する生徒たち

地生徒とともに高校の授業を受け、プレゼンテーションに参加したりする機会もあった。期間中にドイツ・ニュージーランドを観光する等、アメリカ生活を満喫した一行は、空港でホストファミリーと別れを惜しみながら、再会を誓い合った。

ミリヤさんは母国ではバレーボール選手を目指すが、ヨーロッパの選手の中では身長が低いという彼女は、同

本校では今年度、北欧フィンランド出身のミリヤ・ライティスさんが留学生として学び舎を共にしている。本校での生活にも慣れ、充実した日々を送っているミリヤさんに今の心境を語ってもらった。

**Let's talk!**  
**HELLO ミリヤ!!**  
留学生にインタビュー

**編集後記**  
本号で金高新聞の発行が、自分としては最後になりました。取材先を通じて多くの人と関わり、多くのことを学びました。部長、先生、文化委員の方々など多くの支えに心から感謝いたします。また、後輩たちにはこの伝統ある金高新聞をより良い物に作り上げていってほしいと思います。ありがとうございます。

またまた経験が浅く思い残すことは色々ありますが、新聞部の貴重な体験は良い思い出になりました。これから後輩たちでより良い新聞になるよう頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございます。

現在は女子バレーボール部に所属し、また2年生として

じく小柄な日本人選手が、体格差をハンデとせず世界と対等に競い合うプレーに感銘を受けた。「日本スタイルのバレーボールを習得できれば、必ず良いプレーヤーになれる」と考えて、日本への留学を決めたという。



バレーボール部の仲間たちとミリヤさん(前列左から3人目)

新聞を作る中で、文章で物事を伝える難しさ、その楽しさを知りました。またまた未熟な部分もありますが、多くの人に読んでほしい、笑顔に

が、同時に楽しい気持ちもありました。新聞作成で難しい場面もありましたが、文章を書く力が身につきました。部活で身につけた力をこれからの人生で役に立てていきたいと思えます。

なってもいいから、そんな新聞を作ってほしいという思いがあります。

ミリヤさんの日本語は日々上達しており、たくさんの人に話しかけてほしいと願っている。多くの友人を作ることが、彼女の笑顔の原動力になるだろう。



ミリヤさん(右から2人目)と家族

**部員募集中!!**  
西田 京平(1年3組)

今回、初めて作った金高新聞が大変なこともたくさんありました。取材している場所へ行き、いろいろな人から話を聞くことができたので楽しかったです。そして、先輩や顧問の先生の指導もあってとてもいい新聞ができたと思います。これからも一生懸命新聞を作るのでぜひぜひお願います。

仮坂 美香(2年2組)

林 世里奈(3年4組)

南光 志朗(3年5組)